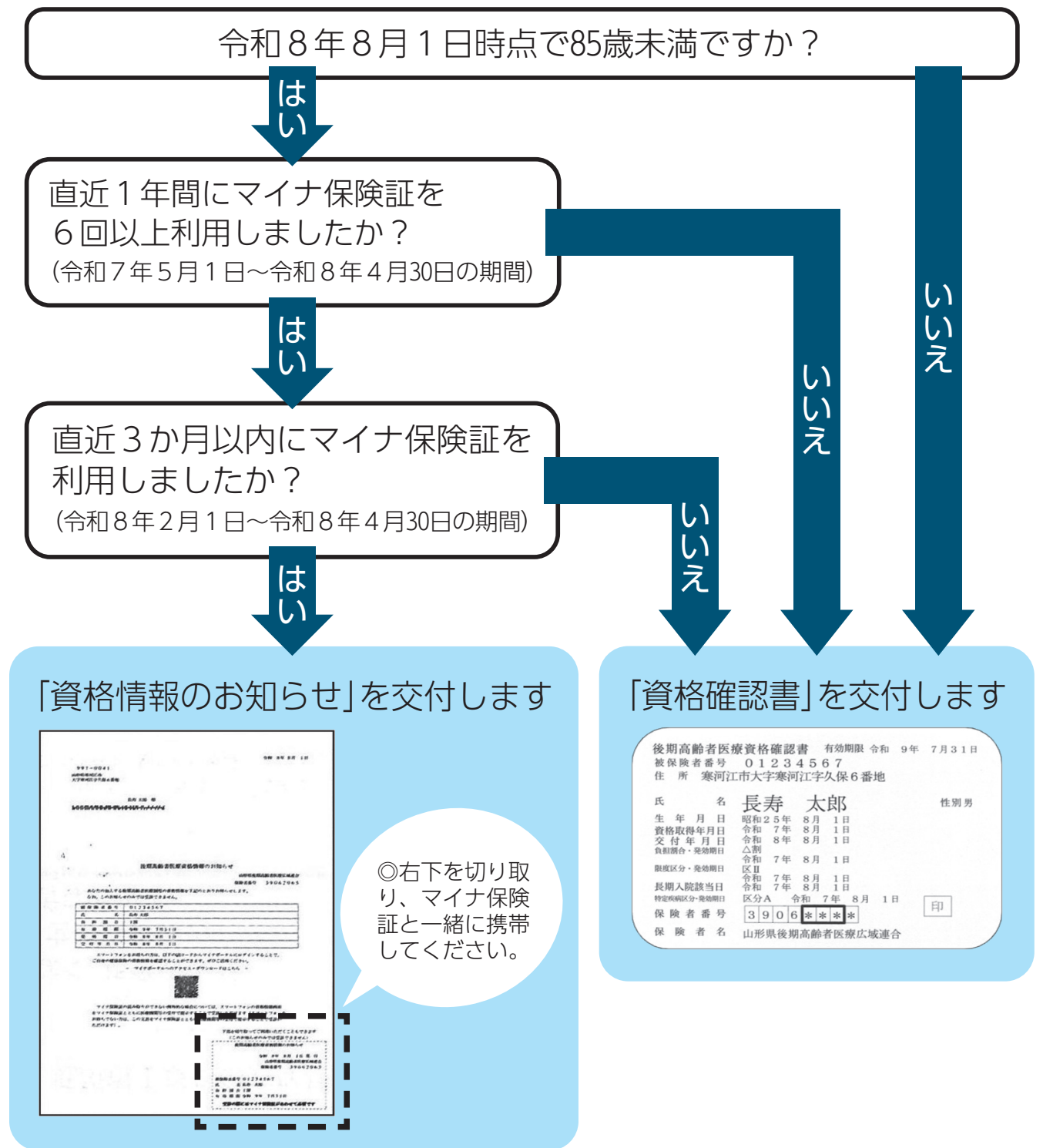


後期高齢者医療保険の加入者の皆さまへ

資格確認書・資格情報のお知らせ交付判定について

令和8年8月以降は、年齢やマイナ保険証の利用実績に応じて「資格確認書」または「資格情報のお知らせ」が交付されます。どちらが交付されるかは以下のように判定します。



■町民税務課 住民グループ
■山形県後期高齢者医療広域連合

☎35-2111(内線124・125)
☎0237-84-7100

柴崎愛有さん(練馬OLC)が 世界オリエンテーリング選手権に日本代表として出場

町出身の柴崎愛有さん(株式会社宮岡)が7月5日～12日にイタリアで行われたスプリント世界選手権大会に日本代表として出場しました。6月8日(月)には、同大会出場のためスポーツ激励金が交付されました。

柴崎さんが、オリエンテーリングと出会ったのは大学時代でした。「何か新しいことにチャレンジしたい」そんな思いから、競技を始めました。大学では高校から陸上部で鍛えた脚力を磨き、競技開始からわずか数年で輝かしい成績を残しています。柴崎さんに今大会に出場しての気持ちなどお聞きしました。

オリエンテーリングとは？
オリエンテーリングは、専門に作られた地図とコンパスを使って、市街地や森の中に設置されたチェックポイントを辿りながらゴールするまでの時間を競うアウトドアスポーツです。脚力だけでなく、走りながら瞬時にルートを決める判断力などを要求される競技です。

今回の世界大会での結果と参加してどのように感じていらっしゃいますか。
初日の個人スプリント予選は17位で、決勝進出ラインの15位と43秒差でした。

順位だけ見ると惜しいように感じますが、ペース配分や付け焼き刃的な技術で縮まるのは現実的に10～15秒で、残りの30秒程はもう数か月～1年単位で取り組まないとならないオリエンテーリング力の差だと感じました。

また、日本チームは確実に以前より強くなっていることを実感しました。私は予選敗退となりましたが、男女各1名が予選を突破、リレー競技では過去最高順位を更新しています。2年後の世界選手権を目指すかどうかはまだ考えていませんが、間近での快挙を観ることができたのは貴重な経験になりました。

今回の大会で競技以外(大会の雰囲気や海外選手・仲間たちとの交流)で印象に残っているエピソードなどはありますか。
トレーニングキャンプ期間は30℃の中アップダウンの激しいコースを走ったので、練習後はみんなでジェラートを食べて涼んだことです。

一瞬の判断が順位に直結する競技だと思えますが、最も大事にしている「考え方(思考のプロセス)」などありますか。
瞬時に見えたルートが負けルート(※)でなければ検討をやめて走り出すことは意識しています。

パッと一番はじめに見えたルートが悪くなさそうであればすぐに走り出した方が、5秒止まって最短ルートを見つけるよりもラップタイムが速くなる場合があります。※ランナーの想定最速ルートと大差がついてしまうルート。選んだら順位を大きく落としかねない。

この競技の魅力についてはどのよう to 思いますか。また、この競技を始めたいと思う方にメッセージをいただければと思います。
走力だけでなく、ナビゲーション技術や、最適なルート選択を行う戦略性があるところが魅力です。今回は市街地や公園で行われるスプリント競技の世界選手権でしたが、森の中で行われる競技も存在します。普段足を踏み入れない自然の中で、自分だけのルートを開拓する楽しさがあります。

今回の取材にあたり、柴崎さんからはお忙しい中、コメントをいただきました。柴崎さんの今後の活躍に注目していきたいと思っています。大変ありがとうございました。



▲競技中の柴崎選手(写真提供: IOF/Kristina Lindgren)